

BCAO 関西支部 第 55 回地域勉強会議事録

1. 概要

(1)日時:2011年6月15日(水)18:20~21:00

(2)場所:(株)インターネットイニシアティブ関西支社

(3)座長:伊藤高信 (FUN)

(4)書記:田中 実 (グリコ栄養食品)

(5)出席者:21名(順不同、敬称略)

角(日本建築総合試験所)、川口(船井電機)、萩原(大林組)、福島(がんの子どもを守る会)、柳父(大阪ガス)、伊藤(FUN)、西濱(西濱防災ネット)、山口(インターネットイニシアティブ)、大野(アビームコンサルティング)、小友(富士通エフサス)、久保田(大和ハウス)、佐原(鈴与)、高橋(JSOL)、西野(京セラコミュニケーション)、鷺山(パナソニック)、黒田(コクヨビジネス)、能任(富士通エフサス)、井口(法務行政書士)、梅田(自営業)、細坪(BCAO 事務局長)、田中(グリコ栄養食品) 以上21名

(6)議題: 1)BCAO 総会セミナーの報告に関する意見交換

進め方として、総会セミナー参加者からの報告及び細坪事務局長より総会セミナー総括説明を基にした意見交換となった。

2)大阪商工会議所との取り組みに関する全体討議

細坪事務局長よりBCAOとして関西でのセミナー開催などの検討についても説明あり。

(会を始めるにあたり、東北大震災犠牲者に黙祷をささげた)

2. 議事録

1) BCAO 総会セミナーの報告に関する意見交換

(司会) 先般の総会セミナーには約 152 名の参加があった。役員それぞれから意見がでた。総会に参加された方から感想と意見を聞かせていただき、それを受けて全体で意見交換を進めたい。

- ・ 役員の意見はもう少し長く聞きたかった。BCPが活かされたかどうかは、その中身、出来栄の問題である。BIA、BCPを精緻に作ったとしても本当にそれが効をそうしたか、実状にそった作成が出来ていたか、それらの前提を確認したうえでBCPを論じるべきだと思う。
- ・ 今回、BCPが役に立たなかったとすれば、それはそれである意味勉強になった。想定外のリスクがあったことは事実、その意味でも大きな教訓になった。それらは南海地震にも活かさなければならぬと思う。千年に1回の機会を与えてもらった。また、原発問題などに見られる2次災害を起こさないことを第1に考える必要があると考えている。その上で自社を振り返ることが必要だ。
- ・ 確かにBCPを評価するのはまだ早いと思う。出来たこと出来なかったことを冷静にしっかりと分析すべきである。
- ・ 役員の意見を聞いた感想です。短時間ではありましたが、ここまでBCP策定はどのような準備をしてきたか、今回どんな問題をもったか、何が重要なのか、それらの洗い出しが出来て良かった。今後の人材育成にも役立っていると思う。
- ・ 今回は企業単独では対応出来なかった。社会全体がパニックに近いところで、企業の生き残りも対応レベル上の課題があった。初動対応を整えるべきであったが原発の問題も起こった。我々は、地に足が着いた対応をもっと引き出す必要があると思う。まとめるには早すぎるのではないか。共通の課題としてまだすべてに問題整理が終わっていない。今日の進め方もそういう視点で考え、各社の具体的事例をだしていく内容に変更してはどうか。
- ・ 総会での役員の意見は、現時点でのそれぞれの立場で言われたことなのでよいのではないかと。
- ・ 現在情報収集中であるが、福島原発の設計は当初想定した地震レベル対応と一致していた。しかし津波の被害が想定を超えたものになってしまった。因みに浜岡原発は場所的にも最大級の設計になっている。今回の福島は人災と言われることがあるが、人間が無から有として科学技術で作ったものがすべて人災かという議論の余地がある。但し、最大限の努力をしたかどうかの問題はあると思う。

- ・ 人災としての災害の考え方は様々にあるが、今回の原発対応をどう2次災害ととらえるかの疑問はある。
- ・ どこまでを2次災害と考えるかは難しい、出来るだけ小さくするしかない。世界の原発事故の許容をどこまでにするか覚悟してやるしかない。どこで了解しあうか決めないと仕方ない。
- ・ 想定外の経済活動はありえない。リスクとして支えきれないものを如何に早くリカバーするかがBCPだと思う。ただ、BCPがその手立てとして手薄だという認識がある。例えば、塩水などをかぶった農地をどう再生するかを考えないとBCPではない。外からの支援だけではなく、現地の方が一日も早く生活が自立できるサポートが必要。BCPに日銭を稼ぎ始められるリカバーのシナリオ・施策が必要だと思う。
- ・ 地域の経済復興について、我々のBCPの取り組みは企業事情の内容が中心となる傾向があって、地域の再生・活性化へのつながっていない点もある。今日の話し合いではBCP策定と地域復興をわけて考えないと收拾が出来ないと思う。しかし我々は地域経済再生への感性をもっと磨いて融合させていく必要がある。
- ・ 地域復興計画は、一企業が考えられる範囲を超える部分もあるが、企業がもっと関わって出来ることはあるはずだ。BCPの策定目的・期待成果・効果がおよぶ範囲などをもっと明確にすべきである。

(司会) 被災地の現状を踏まえ、地道の活動にはなるが、企業の枠を超えて一刻も早く地域復興を果たしていくべきとの観点で、ご意見をいただきたい。

- ・ 電機業界の情報としてだが、サプライチェーンがズタズタになった。海外展開を進めている企業のダメージは比較的小さい。そもそもこれだけの広範囲の被害対応は考えてなかった。反省点は多々ある。BCP策定の条件(リスクアセスメント、BIA)などの見直しが必要になると思う。
- ・ 地域復興とBCPがどう関わるかわからない部分もあるが、今回の東北大震災は何年で復旧するだろうか。何故、阪神淡路はあれだけの期間でまとめることができたのか。我々は企業人として具体的に何ができるのか？皆さんの意見を聞きたい。
- ・ 今回、国の対応は遅いのか？物騒な話して恐縮だが、BCPの観点でいけば優先順位として切り捨てるものが出てくる。例えば、陸前高田は市民がいない。街が捨てられはしないかと懸念している。
- ・ やはり今回は被害対象地域が広すぎる。これから子どもたちがどう生きていくか県レベルでは考えていると思うが、今のBCPの発想では入りづらい。今までにない歴史観をもった方が再生を考えていかないと変えられないのかも。
- ・ 米国人から見たら、今回の震災を日本人が無常観でとらえているとしたら問題だと思っている。米国の支援は、極めてマニュアルにそった救援活動を行なっている。
- ・ 阪神淡路の時は復興のための資金がないという話しはなかった。それも復興の遅れとなっている。今後、首都圏地震などが起きたら対応は難しい。若い人がこの経験を活かしてほしいが相対的に若者が少ないと難しいかも。
- ・ 企業の収益や効率追求の手段としてBCPが存在する要素もある。企業と地域が連携できないと今回の復興はうまくいかない。BCPだけがどんどん表に出て行くのが果たしているのか複雑な心境もある。関西の中小企業においては、東北の現状をみて減災からBCP策定への足がかりとなればよいと思う。
- ・ BCAOのメンバーは具体的な成果として社会に貢献すべきというスタンスはある。ただ企業単位で対応出来ないことをどう考えるか、BCAOは国や行政にどんどん意見をだして行くべきだと思う。企業以外の公的団体への指導に力を入れるべき時期にきているのではないかなと思う。
- ・ 復興貢献に話題が集まっていることは意外だった。私は今BCPが目され徹底されるべきであると思う。のどもと過ぎれば何とやらで、これから重要度が下がっていくのではないかな。模範的な対応をしている企業を紹介するなど、啓発・啓蒙を充実させるには今が良い機会ではないかな。
- ・ BCPは会社経営や社員の雇用を守る手段になるのだというアピールがもっとあってよいと思う。
- ・ BCPは大手企業さんの話したというお得意先がある。中小企業のBCP普及を促進すべきだ。
- ・ 仕事を中心に有事にどうするかを問題にしてきたが、地域で何かあればどうするのが欠けていた。すべての企業がこの問題を考えるべきだと思う。
- ・ 自社の対応で精一杯であった上っ面であった。サプライチェーンまで考えていかねばならないと思う。安否確認メールにおいて従業員の家族までは確認が出来てなかった。その他反省点が多い。

- ・ 復旧を遅らせた原因として、生産対応及び個々の供給部品の不足、被災地区の広さとガソリンの不足が大きく響いた。また、避難所及び仮設住宅などの対応にも行政上の問題がある。
- (司会) 細坪さん宛てに野原さんからメールが入っています。総会でBCPと防災計画を明確に区分けした考え方をとつべきとの発表があったが、どのようなことを指すのか確認願いたいとの連絡があります。細坪さん説明をお願い致します。
- (細坪) ここまで政府に言い続けてきたが、BCPの概念は今まで防災になかった。防災には、①予防対策 ②人命救急対応 ③復旧とある。残念ながらBCは復旧が間に合わないときにどうするかという盲点になっている。そこで代替などの考え方が出てくる訳だが、今、東北の現場は自ら動かない状況があって現場に経済が成り立たない状況にある。新潟県のプロジェクトは現地在動いたが、今回、東北ではBCの考え方がなく防災しか念頭にない。待ちの姿勢、現場で何とかしたいという東北魂が復旧を難しくさせていると思う。単独で先に出て商売を開始するのは村社会で難しいようだ。現場に行くと我々の言うことが理想論だと言われるが、そこが神戸と東北の違うところだ。
- BCは企業の生き残り策であり、どこまでもビジネスである。経営は利益であるという米国の考え方である。復旧をいつまでも待てないという観点を取り入れないといけない。宮城にしろ、岩手にしろBCPがなかった。BCPが役に立たなかったという役人は何も手を打ってこなかった方である。行政は行政で事業継続することを考えないといけない。今日の議論にもあるが、我々もそこを混同して語ると問題が出てくる。
- 原発問題で日本企業全体の仕事がなくなってきている。神戸港シェアダウンのようなことが起きている。ここまでの皆さんの議論は東北沿岸部のレッドゾーン(津波被害)について話してこられたが、面積の大きい内陸部のグリーンゾーンは復旧している。しかし仕事がない状態にある。これは東北だけでなく日本全体で仕事がなくなってきている。政府と東電の対応で日本が信用されなくなってきた。トヨタも米国で売れない状況だ。
- (細坪) 何故、総会セミナーで役員の発表スタイルをとったか、今の段階では様々な整理すべきことがあるのだが、まず役員の皆さんそれぞれに専門の立場で話してもらおうと考えた。今後も意見発表は第二弾(6/23)・三弾(7/12)を考えているのでぜひ注目していただきたい。

2) 大阪商工会議所との取り組みに関する全体討議

- (司会) 以前から懸案となっていた大阪商工会議所との取り組みのあり方について意見交換をしたい。本日は事務局細坪さんも出席されているので、一つ一つ課題を確認しながら進めて行きたい。
- (細坪) ここまで関西メンバーの要請もあって、BCAO 各研究会などの情報提供の場(含むセミナー開催)を関西で作りたいと思い何度か実施してきた。先ほどの総会セミナー役員意見の継続発表の場を兼ねることも考えている。これらを実現するための予算・他の調査をどのようにするかを検討している。この関西での情報提供の場(セミナー開催)は大阪商工会議所(以下、大商)などと連携して開催することも考えたい。もちろん大商抜きで関西での開催も考えている。
- ここまで大商からはセミナーへの講師派遣などの要請があるが、BCAO のルールに沿わない内容での依頼もあって引き受けられない経緯もあった。これから大商との関係をどう構築していくか、どこまで体制として対応していくか、関西としてしっかり議論をして答えを出していただきたい。
- (BCAO は連合組織であり、BCAO にはコンサルタントもいて、各自コンサルタントとして商工会議所に指導することはあるが、商工会議所がBCAO に入るケースは少ない)
- (角) 大商との関係についてはBCAO 関西で出来ることはしっかり対応したいと考えている。ただ、出来ることが限られている。それは能力とパワーの問題もある。更に、関西のメンバーにはBCPの社会的普及より自らの能力アップを求める方も多い。講師依頼については、BCAO のテキストを使うのは問題ないが、大商のニーズが違うこともあって受けられない。こちらの例会と一緒に勉強してもらおうのが基本であると思う。和歌山については地理的に来られないから個別対応をしている。
- (萩原) 大商にはそのあたりをきちっと説明することも必要だ。ルールにこだわりすぎると発展がないということもある。大阪は中小企業も多く大商との連携で会の活性化のために努力すべきではないか。
- (角) 明日、大商との話し合いの場があるので、そのあたりをしっかりと詰めることにする。また、東日本大震災セミナーは大阪でぜひ開催をお願いしたい。

次回会合（予定）

7月20日(水) 18時～

場所 SBLC関西

支部会（座長:前田、書記:川口）

勉強会（座長:大館、書記:西濱）

議題予定

（支部会）

- ・大阪商工会議所との協議内容
- ・他

（勉強会）

- ・渡辺先生（BCAO名古屋支部長）
- ・大震災について 情報提供&意見交換会

以上